

平成29年(2017年)6月11日

れきみん

資料館だより

No. III-3

相生市立歴史民俗資料館

見る・聞く・学ぶ 相生の歴史

小学生・中学生対象「史跡めぐり」参加者募集

- ◇ 日時：7月22日(土)午前9時 市役所玄関前集合
- ◇ 内容：相生市内史跡めぐり(那波野・古池方面) 約3時間
- ◇ コース：
 - ① 市役所(集合、マイクロバスに乗って出発)
 - ② 歴史民俗資料館(展示解説による事前学習 展示見学)
 - ③ 西法寺(移築された若狭野陣屋の表御門 ど根性わらぺ地蔵)
 - ④ 塚森古墳(相生市最大の古墳 墳長約60mの帆立貝形前方後円墳) [5世紀]
 - ⑤ 那波野古墳【兵庫県指定史跡】(直径約30mの円墳、巨石を用いた播磨屈指の大型横穴式石室) [7世紀]
 - ⑥ 相生平和記念碑(旧播磨造船所に徴用された韓国・朝鮮人無縁仏追悼碑 在日韓国・朝鮮人団体、相生市、市民、関係団体の協力により建立された平和の象徴)
 - ⑦ 市役所(正午ごろ、解散予定)
- ◇ 対象：小学生(4年生以上)・中学生
*引率成人も可。
- ◇ 定員：20名(先着順)
- ◇ 持物：水等・タオル・帽子等
*暑さ対策を行って、歩きやすい靴・服装で参加してください。



- ◇ 参加費：無料
 - * 歴史民俗資料館の職員が随行し、解説をしたり質問を受けます。
 - * 雨天の場合は中止します。
 - * 参加を希望される方は、6月16日(金)から歴史民俗資料館に申し込んでください(☎23-2961)。定員になりしだい締め切ります。
なお、電話による受付は、休館日(月曜日、ただし月曜日が祝日の場合は翌日)を除く午前9時30分から午後3時30分までとなっています。
- 児童・生徒の皆さん、夏休み中の来館をお待ちしています!
- 社会科等の自由研究に活用してください。調べ方やまとめ方についても、必要に応じて担当職員がアドバイスします。図書館とともに気軽に利用してください。
- [開館時間：10:30~14:30 休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始]

〈資料紹介2〉^{くが}陸出土蔵骨器

平成29年(2017年)4月12日、滋賀県大津市在住の池永美穂氏より、父親の赤枝文憲氏(故人・那波本町)が採集された多数の考古資料を寄贈していただきました。

資料の大半は、古墳時代後期～奈良時代の須恵器です。それらの中から、「昭和二十年七月 相生市陸開壘山ニテ発掘」の注記のある資料について、およその出土場所が判明したため、実測図と写真を掲載し紹介します。

本資料は須恵器の短頸壺です。口縁部にわずかな欠損が見られるものの、完形品に近いものです。体部外面はヘラケズリの後、ヨコナデでていねいに調整し、焼成も良好で灰色を呈しています。口径11.8cm、胴部最大径27.5cm、底部高台径15.2cm、器高25.3cmを測ります。

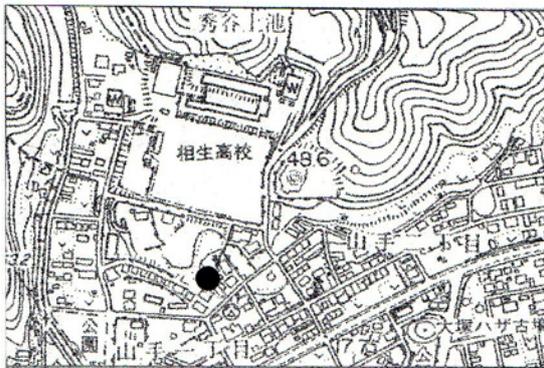
本来は蓋を伴っていたと思われませんが、寄贈資料の中にはそれらしきものは確認できませんでした。内面底部は茶褐色をしており、内臓物による変色と考えられます。

赤枝氏と親交があった鈴木豊彦氏の記憶によると、「陸開壘山」とは、現在の兵庫県立相生高等学校の南で、地図で示した地点から出土したといます。出土状況はよくわかりませんが、出土地点は畑地であったそうです。

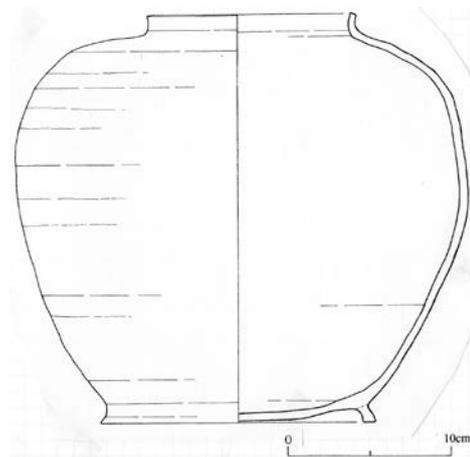
本資料は、8世紀前半ごろの蔵骨器(火葬あるいは曝葬・洗骨した死者の遺骨を納めた容器)とみられ、出土地は奈良時代の古墓であったと考えられます。

日本における火葬は、唐で学んだ僧の道昭の死(700年)により始まったと『続日本紀』に記されています。その後、持統天皇の火葬(702年)を経て、多くの貴族や僧侶・地方官人らに浸透し、多種多様な蔵骨器が成立し、平安時代初期まで盛行しました。本資料の蔵骨器は優品であり、納められた人物は一定の地位・階層にあった者と思われます。

(中濱久喜)



蔵骨器出土地点(地図1:10000)



陸出土蔵骨器実測図(1:5)

(参考文献)

田中 琢・佐原 真編 2002『日本考古学事典』
(三省堂)

狭川真一 2011『極楽行きのタイムカプセル-火葬
骨器の世界-』(元興寺・元興寺文化財
研究所)

* 鈴木豊彦氏・森内秀造氏より、有益なご教
示をいただきました。

